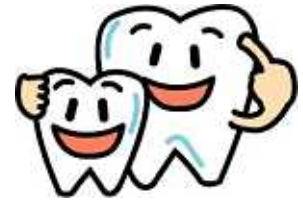


子どもの歯

～津山歯科医師会～



今回は子どもの歯で大人と違う点を話してみようと思います。

乳歯は永久歯と比べて形は良く似ていますが、小さくてやや白っぽい色をしています。乳歯が抜けて永久歯が生えてくると、隣の乳歯と比べて永久歯の方が黄色っぽく感じるものです。またずいぶん大きな歯が出てきたなあとと思われる人も多いと思います。それは子どもの小さい口の中に、大人になったときと同じサイズの永久歯が生えてきたからです。当然のことですが、生えてきた永久歯が大人になるにつれて大きく成長することはありません。



上の左右真ん中の歯（A A）の間には上唇小帯といわれる糸状のものが上唇についています。子どもの場合この上唇小帯が大人と比べて太く、歯の間まで入り込んでいる人もいます。子どもの歯ミガキをしてあげるとき、この上唇小帯に歯ブラシが当たると痛いものです。指で押さえてみがいてあげるなど少し注意してください。

大人になるにしたがってこの上唇小帯は歯から離れていき、細くなります。しかし太く、左右でくっつかず隙っ歯になることもあり、この場合は歯科医院で切ってもらいます。

上の真ん中の歯 A A の間にはもう一つ特徴的なことがあります。この部位はずいぶんむし歯になりやすいのです。大人の歯の場合はないことですし、歯の形もそんなに変わらないのに不思議なものです。これも歯ミガキの時に注意してよく見てあげてください。



口の中に出てきたばかりの永久歯は幼若永久歯と呼ばれます。

6才頃、奥の乳歯の後ろに生えてくる6本目の歯はとても大切な歯であると前回お話ししました。永久歯は口の中に出てきてから完成すると言われています。すなわち口の中に出てきたばかりの時は、歯の表面はまだ完全には出来上がっていないのです。口の中に出てきたことによって表面が少し溶けて（脱灰といいます）、また唾液のカルシウムが取り込まれて（再石灰化といいます）を繰り返すことによって表面が硬く出来上がるのです。ですから幼若な永久歯の表面は常にきれいにして、唾液と触れる状態にしておく必要があるの

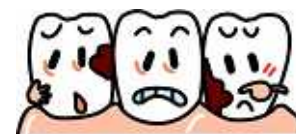
です。口の中で一番大きく、噛むことに最も重要な6番を硬く丈夫な歯にするために、生えてきた直後からきれいにみがくことは大変大切なことです。



子どもの虫歯はとても早く進行します。表面のエナメル質に小さな点のような穴が開くと、その下の象牙質では急速に虫歯が広がり、硬い歯が白くてふわふわのチーズのような柔らかさになってしまいます。早期の治療も大切ですが、むし歯にならないように予防の歯ミガキはもっと大切です。

子どもの口の中には甘いものが入ってくる機会がやはり多くありますね。大人と比べてむし歯になりやすい環境に晒されている子どもの歯を守るには歯ミガキしかありません。

今回は子どもの歯ミガキについてお話ししましょう。



お問合せ先：津山市健康増進課 0868-32-2069